

幼児教育長期派遣通信 2学期号

発行 令和6年1月19日

福山市立緑丘小学校 渡部 裕貴（派遣園・所：福山市立緑丘幼稚園）

本研修では、幼児教育の実践を体験することによって、幼児教育の理解や幼保小接続の充実を図ることを目的としています。1学期号では、「遊びは学び」に向けた環境づくりや保育者の援助について紹介しました。2学期号では幼保小の円滑な接続に向けてお伝えします。

1 2学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・年長組保育観察、補助 ・月案、週案の確認
- ・保育カンファレンス ・エピソード研修 ・特別支援教育についての研修

(2) 園外研修

- ・幼児教育理解に係る研修会 ・接続に係る研修会 ・広島県乳幼児期の教育・保育研究協議会
- ・所属校に入学してくる園児の実態把握 ・幼児教育長期派遣研修報告会 ・幼保小連絡協議会
- ・幼保小接続校内研修（本校） ・広島県小学校体育科教育研究大会（本校）
- ・福山 100NEN 教育 教育フォーラム ・広島県国公立幼稚園・こども園連盟教育研究大会
- ・福山市立西幼稚園教育研究会

2 研修を通して（事例紹介）

【事例①】「一人で頑張ってみる！」（運動参観）

【好きな遊びの様子】

巧技台を使った遊び



リレー遊び



鉄棒遊び



運動参観までの概要

10月初旬に学区民運動会があり、参加した園児たちは幼稚園でも運動会（運動参観日）があることを知りました。どんな運動内容を保護者に見せたいか、クラスみんなで話し合いました。そして好きな遊びの時間にしてきた巧技台を使ったジャンプ・滑り台・ビーム・はしごや鉄棒、リレー遊び、リズム遊びなどをすることに決めました。

子供の変容

運動参観に向けて運動をそれぞれが楽しむ中で、「上手くできない」「できなかったらどうしよう」と不安に思う子が数人いました。保育者が運動をサポートする場面は多々ありましたが、自分からやってみよう！挑戦してみよう！などの気持ちにはなっていませんでした。ある日、苦手なビームやはしごに保育者と一緒に挑戦している様子をカメラで写真に撮り、「こんなに頑張っているんだね」とすぐに写真を見せました。すると、「うん！もう一回やってみるね」と前向きになり、運動を始めました。繰り返し運動をすることで自信をもち始め、参観日当日は保護者の前で元気いっぱい楽しむ姿を見ることができました。保護者の声援もあり、本人は「頑張ったね」と大満足していました。

【幼保小の円滑な接続】

運動する活動では、「できる」「できない」が明確になりやすいため、自信を失ったり苦手意識をもちやすかったりします。子供一人ひとりが主体的に取り組み達成感・満足感を得るためには、単元でつける力と子供の実態を整理し、「これやってみよう！」「できるようにになりたいな！」と思える環境を準備し、気持ちに寄り添いながら学習が展開されていくことが大切です。

できたよ！



【事例②】「どんぐり遊園地ランド」（緑丘小学校の1年生（1クラス）との交流）

【活動の様子】

表現遊び



せーのっ!
(ジャンプ)

秋見つけ



よろしくね!

お礼のお手紙



この前はありがとう!

小学校のお姉ちゃんたち
来たよ!

どんぐり遊園地ランド



これ可愛い!

いらっしやいませ

ありがとう
また来るね!

バイバイ!
また来てね!

どんぐり遊園地ランドまでの概要

11月初旬、1年生から表現遊びに招待されました。小学校の体育館で園児と児童が少人数のグループを作り、たくさんの動物になりきって遊びました。

帰る時、児童から近くの神社に秋の自然物を見つける活動（秋見つけ）に誘われ、後日一緒に行くことになりました。神社でも園児と児童が少人数のグループになり、どんぐりや落ち葉、枝などを拾いました。

秋見つけが終わってから、園児たちは絵本や自分のイメージを参考にして秋の自然物を使ったコリントゲームやロボット、アクセサリなどを作り、「どんぐり遊園地ランド」を開くことにしました。制作していると、秋見つけに行った1年生たちからお礼の手紙が届きました。園児たちは大喜びしました。そして、児童たちを「どんぐり遊園地ランド」に招待したいと気持ちが高まっていきました。

子供の愛容

表現遊びの始めは緊張していましたが、すぐに笑顔が増え、終わるころには園児たちから「楽しかった!」「また遊ぼうね」といった声が出ました。

秋見つけも一緒に表現遊びをした児童たちだったこともあり、「こっちにどんぐりがいっぱい落ちているよ」「そっちは危ないよ」など、互いに相手意識をもって関わり合っていました。

どんぐり遊園地ランドでは、園児たちの一生懸命な接客の姿に児童たちも気持ちが高まり、「これ可愛いね」「このゲーム面白いね」と感想を次々に伝えていました。帰る時間になると園児たちは自然と見送る場所に体が動き、大きな声で笑顔で「また来てね。遊ぼうね」と伝えていました。

【幼保小の円滑な接続】

幼児教育と小学校教育という目線で事例を分析すると、幼児教育では「小学生と交流することで小学校に親近感をもつ」「来年度に向けた円滑な接続の第一歩」、小学校教育では「学習を通して学んだことを幼児に伝える」といったためあてに対し、「遊び」を通じた交流活動がとても効果的だったと考えられます。

ただ幼児児童が交流する場を設定するだけでなく、互いに教師がねらいをもって関わり合うことが学びにつながると考えます。子供の実態に合わせながら保育の時期と学習する時期や時数を合わせるためには幼保小の職員同士での細かい連携が必要ですが、子供のために学びにつながる場を設定していきたいです。

3 まとめ

子供が自信をもって活動に取り組んだり相手意識のある関わりをしたりするためには、「個の満足感」や「経験の積み重ね」、「安心して過ごせる場」が大切です。子供の実態を一人ひとり丁寧に把握し、環境（人、もの、こと）を準備していきたいです。

円滑な接続では、就学前の「遊びが学び」を大切にした教育・保育でどのような力が育まれているのか理解を深める必要があります。これは幼保小に限らず、「子供がどのような学びや育ちをしてきたか」で考えると、どの学年でも当てはまると考えます。教師のねらいと子供の思いが交錯するように、長期的なねらい（線、面）と日々のねらい（点）をつなげた関わり方をしていきたいです。

〈乳幼児教育支援センターより〉

子供たちは、安心して生活を送ることができると、自分の力が発揮できるようになり、友達や先生に認められる経験を重ねることで、更なる成長への意欲が高まっていきます。そして、自分で考え、判断し行動するという学びのプロセスを歩いていくことで、学習者として自立していくことができます。

子供たち一人一人が安心し、主体的な活動が行えるようにするための教師の関わりは極めて重要です。